

附属学校を置く各国立大学長
各都道府県教育委員会
各市町村教育委員会 殿
各都道府県知事
国立久里浜養護学校長

文部科学省初等中等教育局長
矢野重典

小学校児童指導要録，中学校生徒指導要録，高等学校生徒指導要録，中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録，中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について（通知）（抄）

小学校，中学校，高等学校並びに盲学校，聾学校及び養護学校小学部・中学部・高等部の指導要録については，様式等を決定する各学校の設置者等の参考に供するよう，従来から，小学校，中学校，高等学校並びに盲学校，聾学校及び養護学校小学部・中学部・高等部の学習指導要領の改訂に合わせて様式の参考案を作成し，改善に努めてきました。

このたび，教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（平成12年12月4日）（以下「答申」という。）を受け，各学校における指導要録の作成の参考となるよう，小学校児童指導要録については別紙第1のとおり，中学校生徒指導要録については別紙第2のとおり，高等学校生徒指導要録については別紙第3のとおり，盲学校，聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録，中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録については別紙第4のとおり，それぞれの指導要録に記載する事項等を取りまとめました。

また，中等教育学校の指導要録に記載する事項等については，前期課程は別紙第2に，後期課程は別紙第3にそれぞれ準じることとしました。

ついては，下記並びに別紙第1，別紙第2，別紙第3及び別紙第4を十分御了知の上，指導要録の様式等を適切に定めるとともに，各学校において適切に指導要録が作成されるようお願いいたします。

さらに，幼稚園（盲学校，聾学校及び養護学校の幼稚部を含む。）と小学校（盲学校，聾学校及び養護学校の小学部を含む。）との緊密な連携を図る観点から，幼稚園並びに盲学校，聾学校及び養護学校の幼稚部においてもこの通知の趣旨の理解が図られるようお願いいたします。

「答申」にもあるように，学力については，知識の量のみでとらえるのではなく，学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより，それにとどまることなく，自ら学び自ら考える力などの「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要があります。これからの児童生徒の学習状況の評価に当たっては，このことを適切に評価できるよう，工夫することが必要となります。

また，指導要録は，1年間の学習指導の過程や成果などを要約して記録するものであり，その記録を確かなものにするためには，そこに至るまでの継続的な評価の充実が重要です。このため，これからの評価においては，各学校において，観点別学習状況の評価を基本とした現行の評価方法を発展させ，学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価が一層重視されるとともに，児童生徒一人一人のよい点や可能性，進歩の状況などを評価するため，個人内評価が工夫されるようお願いいたします。それとともに，各学校において，指導と評価の一体化，評価方法の工夫改善，学校全体としての評価の取組が進められるとともに，学習の評価の内容について，日常的に児童生徒や保護者に十分説明し，共通理解が図られるようお願いいたします。

さらに，国立教育政策研究所教育課程研究センター等において研究開発される評価規準等も参

考にしながら，都道府県や市町村の教育センター・教育研究所等や，教員養成大学・学部等の教育研究機関においても，評価規準や評価方法等の研究開発を行い，各学校における評価の客観性・信頼性を高めるようお願いします。

また，附属学校を置く各国立大学長，各都道府県教育委員会及び各市町村教育委員会におかれては，指導要録の改善の趣旨を踏まえ，高等学校等の入学者選抜のための資料である調査書の記載内容及び取扱い等について検討を進めるようお願いします。

なお，各都道府県知事におかれては，所轄の学校及び学校法人等に対し，このことを十分周知されるようお願いします。

平成3年3月20日付け文初小第124号「小学校児童指導要録，中学校生徒指導要録並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録及び中学部生徒指導要録の改訂について」の通知は平成14年3月31日をもって，平成5年7月29日付け文初高第162号「高等学校生徒指導要録並びに盲学校，聾学校及び養護学校の高等部生徒指導要録の様式例等の改訂について」の通知は平成15年3月31日をもって，それぞれ廃止します。

記

この通知は，小学校学習指導要領（平成10年文部省告示第175号），中学校学習指導要領（平成10年文部省告示第176号），高等学校学習指導要領（平成11年文部省告示第58号），盲学校，聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領（平成11年文部省告示第61号）並びに盲学校，聾学校及び養護学校高等部学習指導要領（平成11年文部省告示第62号）の下での指導要録に記載する事項等を示すものである。

1 各学校に共通する事項について

指導要録は，児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し，その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであるが，今回の改善においては，中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」（平成10年9月21日）の趣旨等を踏まえ，各設置者等において，地域に根ざした主体的かつ積極的な教育の展開の観点から様式等が定められるよう，「指導要録に記載する事項等」を示し，簡素化を図るとともに，「参考様式」を添付する。

2 小・中学校の指導要録について

（1）各教科の評定について，学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るなどの観点から，学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価することに改める。

（2）「総合的な学習の時間」について，各学校で評価の観点を定めて，評価を文章記述する欄を新たに設ける。

（3）「生きる力」の育成を目指し，豊かな人間性を育てることが重要であることを踏まえ，「行動の記録」の項目を見直す。

（4）「生きる力」は全人的な力であることを踏まえ，児童生徒の成長の状況を総合的にとらえる工夫ができるようにする趣旨から，所見欄等を統合する。

3 高等学校の指導要録について

各教科・科目の評定については，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四つの観点による評価を十分踏まえるとともに，「総合的な学習の時間」について，評価を文章記述する欄を新たに設ける。

4 盲学校，聾学校及び養護学校の指導要録について

児童生徒の障害の状態等に応じた指導の目標の実現状況の評価や個人内評価を重視することとし，「自立活動」の欄の設定，個別の指導計画を踏まえた評価の推進，教育課程や学習指導の状況及び障害の重度・重複化や多様化等に応じた適切な記録の充実などの改善を図る。

中学校生徒指導要録に記載する事項等

学籍に関する記録

原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じたときに記入する。

- 1 生徒の氏名、性別、生年月日及び現住所
- 2 保護者の氏名及び現住所
- 3 入学前の経歴
中学校に入学するまでの教育関係の略歴を記入する。なお、外国において受けた教育の実情なども記入する。
- 4 入学・編入学等
 - (1) 入学
生徒が第 1 学年に入学した年月日を記入する。
 - (2) 編入学等
第 1 学年の中途又は第 2 学年以上の学年に、外国にある学校などから編入学した場合、又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について、その年月日、学年及び事由等を記入する。
- 5 転入学
他の中学校（中等教育学校の前期課程並びに盲学校、聾学校及び養護学校の中学部を含む。）から転校してきた生徒について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。
- 6 転学・退学等
他の中学校（中等教育学校の前期課程並びに盲学校、聾学校及び養護学校の中学部を含む。）に転学する場合には、そのために学校を去った年月日、転学先の学校が受け入れた年月日の前日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。
外国にある学校などに入るために退学する場合又は学齢（満 15 歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している生徒の退学の場合には、校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。
なお、就学義務の猶予・免除をする場合又は生徒の居所が 1 年以上不明である場合は、在学しない者として取り扱い、在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。
- 7 卒業
校長が卒業を認定した年月日を記入する。
- 8 進学先・就職先等
進学先の学校名及び所在地、就職先の事業所名及び所在地等を記入する。
- 9 学校名及び所在地
- 10 校長氏名印、学級担任者氏名印
各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。（同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。）

指導に関する記録

〔各教科の学習の記録〕

観点別学習状況及び評定について記入する。

観点別学習状況

中学校学習指導要領（平成 10 年文部省告示第 176 号）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、C の記号により記入する。この場合、「十分満足できると判断されるもの」を A、「おおむね満足できると判断されるもの」を B、「努力を要すると判断されるもの」を C とする。

また、特に必要があれば、観点を追加して記入する。

各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別、分野別に示したものは別添 2 - 1 のとおりである。各学校においては、評価が効果的に行われるようにするため、これらを参考として、評価規準の工夫・改善を図ることが望まれる。

選択教科については、生徒選択を基本とし、生徒の特性等に応じた多様な学習活動を展開するという趣旨が生かせるよう考慮して、学校が観点を設定し、記入する。

評定

各学年における各教科の学習の状況について、必修教科については、各教科別に中学校学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を、選択教科については、この教科の特性を考慮して設定された目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、記入する。

必修教科の評定は、5段階で表し、5段階の表示は、5、4、3、2、1とする。その表示は、中学校学習指導要領に示す目標に照らして、「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」を5、「十分満足できると判断されるもの」を4、「おおむね満足できると判断されるもの」を3、「努力を要すると判断されるもの」を2、「一層努力を要すると判断されるもの」を1とする。

選択教科の評定は、3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとする。その表示は、それぞれ教科の特性を考慮して設定された目標に照らして、「十分満足できると判断されるもの」をA、「おおむね満足できると判断されるもの」をB、「努力を要すると判断されるもの」をCとする。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意することが望まれる。その際、観点別学習状況の評価を、どのように評定に総括するかの具体的な方法等については、各学校において工夫することが望まれる。

〔総合的な学習の時間の記録〕

総合的な学習の時間については、この時間に行った学習活動及び指導の目標や内容に基づいて定めた評価の観点を記載した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入するなど、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の二つのねらい（自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること）などを踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。（例えば、上記の二つのねらいを踏まえ、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」「学習への主体的、創造的な態度」「自己の生き方」などと定めたり、また、教科との関連を明確にして、「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」「知識を応用し総合する能力」などと定めたり、さらに、各学校の定める目標・内容に基づき、「コミュニケーション能力」「情報活用能力」などと定めたりすることが考えられる。）

〔特別活動の記録〕

特別活動における生徒の活動について、各内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。

各内容及びその趣旨は、別添2-2のとおりである。

〔行動の記録〕

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、各項目ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。また、特に必要があれば、項目を追加して記入する。

各項目及びその趣旨は、別添2-3のとおりである。

〔総合所見及び指導上参考となる諸事項〕

生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下のような事項などを記入する。

各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見

特別活動に関する事実及び所見

行動に関する所見

進路指導に関する事項

生徒の特徴・特技、学校内外における奉仕活動、表彰を受けた行為や活動、知能、学力等について標準化された検査の結果など指導上参考となる諸事項

生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意することが望まれる。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また、学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も、必要に応じ、記入する。

なお、通級による指導を受けている生徒については、通級による指導を受ける学校名、通級に

よる指導の授業時数，指導期間，指導の内容や結果等を記入する。

〔出欠の記録〕

以下の事項を記入する。

1 授業日数

生徒の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。この授業日数は、原則として、同一学年のすべての生徒につき同日数である。ただし、転学又は退学等をした生徒については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした生徒については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

2 出席停止・忌引等の日数

以下のような日数を含めて記入する。

(1) 学校教育法第26条及び学校保健法第12条による出席停止日数並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条，第20条，第26条及び第46条による入院の場合の日数

(2) 学校保健法第13条により，臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数

(3) 忌引日数

(4) 非常変災等生徒若しくは保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで，校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(5) その他教育上特に必要な場合で，校長が出席しなくてもよいと認めた日数

3 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

4 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で生徒が欠席した日数を記入する。

5 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお，学校の教育活動の一環として生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加した場合には，出席扱いとすることができる。

また，不登校の生徒が適応指導教室等学校外の施設において相談・指導を受け，そのことが当該生徒の学校復帰のために適切であると校長が認める場合には，出席扱いとすることができる。この場合には，出席日数の内数として出席扱いとした日数及び生徒が通所又は入所した学校外の施設名を記入する。

6 その他

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項，欠席理由の主なもの，遅刻，早退等の状況，転入学した生徒についての前に在学していた学校における出欠の概要等を記入する。

各教科・各学年の評価の観点及びその趣旨

国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
国語への関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
話す・聞く能力	自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。
書く能力	自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。
読む能力	目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
言語についての知識・理解・技能	表現と理解に役立てるための音声、語句、語彙、文法、漢字等について理解し、知識を身に付けている。書写では、文字を正しく整えて速く書く。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

観点 \ 学年	第 1 学年	第 2 学年及び第 3 学年
国語への関心・意欲・態度	国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり書いたり、読書に親しんだりしようとする。	国語に対する関心を深め、進んで話し合ったり工夫して書いたり、読書したりして、生活を向上させようとする。
話す・聞く能力	自分の考えを大切に、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり話の内容を的確に聞き取ったりする。	自分のものの見方や考え方を深めて、目的や場面に応じ、説得力のある表現の仕方に注意して話したり聞き取ったりする。
書く能力	必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、相手や目的に応じ、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章を書く。	様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにし、論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書く。
読む能力	様々な種類の文章を読み、文章の構成や展開をとらえて内容を的確に理解し、自分のものの見方や考え方を広げる。	目的や意図に応じて文章を読み、書き手の論理の展開の仕方をとらえて内容の理解に役立て、自分の意見をもつとともに、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する。
言語についての知識・理解・技能	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する基礎的な事項や国語の特質について理解し、知識を身に付けている。書写では、楷書の書き方と行書の基礎的な書き方を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書く。	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する基礎的な事項や国語の特質について理解し、知識を身に付け、日常の言語活動を振り返り言葉のきまりについて気付く。書写では、楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、読みやすく速く書く。

社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
社会的事象への関心 ・意欲・態度	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。
社会的な思考・判断	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断する。
資料活用の技能・表現	平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
社会的事象についての知識・理解	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 分野別の評価の観点の趣旨

観点	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
社会的事象への関心・意欲・態度	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土の特色について認識を養おうとする。	歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。	現代の社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。
社会的な思考・判断	地理的事象から課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し、公正に判断する。	歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。	現代の社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断する。
資料活用の技能・表現	地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。	年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。	統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。
社会的事象についての知識・理解	世界と日本の地域構成、地域の規模に応じてとらえた地域的特色、世界と比べて見た日本の地域的特色などを理解し、その知識を身に付けている。	我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。	現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。

数 学

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
数学への関心・意欲・態度	数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り考えを深める。
数学的な表現・処理	事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。
数量、図形などについての知識・理解	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

観点 \ 学年	第1学年	第2学年	第3学年
数学への関心・意欲・態度	さまざまな事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考えることに関心をもち、意欲的に問題の解決に活用しようとする。	さまざまな事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考えることに関心をもち、意欲的に問題の解決に活用しようとする。	さまざまな事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考えることに関心をもち、意欲的に問題の解決に活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して、数量、図形などについての基礎的な知識と技能を確実に習得するとともに、それらを活用しながら、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもって論理的に考察する。	数学的活動を通して、数量、図形などについての基礎的な知識と技能を確実に習得するとともに、それらを活用しながら、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察する。	数学的活動を通して、数量、図形などについての基礎的な知識と技能を確実に習得するとともに、それらを活用しながら、数学的な見方や考え方を身に付け、事象に潜む関係や法則を見いだし、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察する。
数学的な表現・処理	正の数・負の数の四則計算や基本的な図形の作図ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の計量に用いたりするなど、図形や数量関係を的確に表現したり数理的に処理したりする。	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について推論の筋道を簡潔に表現したり、数量関係を的確に表現したり数理的に処理したりする。	平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について推論の筋道を簡潔に表現したり、数量関係を的確に表現したり数理的に処理したりする。
数量、図形などについての知識・理解	正の数・負の数、文字を用いることの意義、一元一次方程式、平面図形についての性質や関係、空間における図形の位置関係、比例・反比例の関係などを理解している。	文字式のはたらき、連立二元一次方程式、平面図形の性質、円周角と中心角の関係、図形の証明の意義と方法、一次関数の特徴、確率の意味などを理解している。	数の平方根の意味、単項式と多項式の計算、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や直角三角形の性質、二次関数の特徴などを理解している。

理 科

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
自然事象への関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。
科学的な思考	自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。
観察・実験の技能・表現	観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
自然事象についての知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 分野別の評価の観点の趣旨

観 点 \ 分 野	第 1 分 野	第 2 分 野
自然事象への関心・意欲・態度	物質やエネルギーに関する事物・現象に関心をもち、意欲的に探究する活動を行うとともに、事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関心をもち、意欲的に探究する活動を行うとともに、自然環境を保全し生命を尊重しようとする。
科学的な思考	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし解決方法を考えるなどして観察、実験などを行うとともに、事象を巨視的、微視的にみたり、事象の生じる要因や仕組みを分析的、総合的に考えたりするなど、事象を論理的、実証的、客観的に考察して問題を解決する。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見だし解決方法を考えるなどして観察、実験などを行うとともに、自然の事物・現象を時間、空間と関係付けて動的にみたり、事象の生じる要因や仕組みを分析的、総合的に考えたりするなど、事象を論理的、実証的、客観的に考察したりして問題を解決する。
観察・実験の技能・表現	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画、実験による検証、結果の記録・考察など、探究する過程を通して規則性を見いだしたり、自らの考えを導き出したりして創意ある観察・実験報告書の作成や発表を行う。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画、実施、結果の記録・考察など探究する過程を通して規則性を見いだしたり、自らの考えを導き出したりして創意ある観察・実験報告書の作成や発表を行う。
自然事象についての知識・理解	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。

音楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
音楽への関心・意欲・態度	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。
音楽的な感受や表現の工夫	音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。
表現の技能	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。
鑑賞の能力	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

観点 \ 学年	第1学年	第2学年及び第3学年
音楽への関心・意欲・態度	音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする。	音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しもうとする。
音楽的な感受や表現の工夫	音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などや速度、強弱の働きを知覚し、音楽のもつ曲想や美しさを感じ取る能力を身に付け、それらを生かした表現や鑑賞の工夫をしている。	音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などや速度、強弱の働きを知覚し、音楽のもつ曲想や美しさを感じ取る能力を高め、楽曲への理解を深めながらそれらを生かした表現や鑑賞の工夫をしている。
表現の技能	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、曲に対する自分の解釈やイメージを音を通して適切に表現していくため、発声や楽器の扱い、読譜力などの基本的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育む。	楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、曲に対する自分の解釈やイメージを音を通して適切に表現していくため、発声や楽器の扱い、読譜力などの表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。
鑑賞の能力	楽曲の雰囲気や曲想と諸要素の働きによる効果、我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽の特徴などを背景となる文化・歴史などとかかわらせて感じ取って聴く。	楽曲全体の曲想と諸要素の働きによる効果、我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽の特徴などを、背景となる文化・歴史や他の芸術などとかかわらせて総合的に理解して聴く。

美術

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
美術への関心・意欲・態度	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み，その喜びを味わい，美術を愛好していこうとする。
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に，豊かに発想し，よさや美しさなどを考え，心豊かで創造的な表現の構想をする。
創造的な技能	表現の技能を身に付け，造形感覚や感性などを働かせ，自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。
鑑賞の能力	美術作品や文化遺産などに親しみ，感性や想像力を働かせてよさや美しさを感じ取り味わったり，理解したりする。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

観点 \ 学年	第1学年	第2学年及び第3学年
美術への関心・意欲・態度	自然や身近なもの，美術作品などのよさや美しさに対する関心を持ち，意欲的に美術の基礎的能力を身に付けようとし，それを生かして楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み，美術を愛好していこうとする。	自然や身近なもの，美術作品などのよさや美しさ，美術文化や文化遺産などに対する関心を高め，自分のよさを生かして表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組み，美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて，自然や身近なものを観察しよさや美しさなどを感じ取ったり考えたり，用途や機能を考えたりして，豊かに発想し構想する能力を身に付け，形や色の構成などを工夫し，自分らしく心豊かな表現の構想をする。	感性や想像力を働かせて，対象やものごとを深く見つめよさや美しさなどを感じ取ったり考えたり，用途や機能を考えたりして，独創的で豊かな発想をし，心豊かで創造的な表現の構想をする。
創造的な技能	スケッチ，形体や色彩の表し方など美術の基礎的技能を身に付け，造形感覚や感性，想像力などを働かせ，表現意図に合う多様な表現方法を創意工夫し，美しく表す。	感じ取ったことや心の世界などをスケッチに表し，想像力や創造的な技能などを働かせ，表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創意工夫し，創造的に表す。
鑑賞の能力	自然，美術作品や生活の中の造形などに親しみ，感性や想像力を働かせてよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わったり，生活の中の美術の働きなどについて理解や見方を広げたりする。	自然，美術作品や生活の中の造形，美術文化や文化遺産などに親しみ，感性や想像力を働かせてよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫，創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり，理解や見方を深めたりする。

技術・家庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
生活や技術への関心・意欲・態度	生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。
生活を工夫し創造する能力	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。
生活の技能	生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。
生活や技術についての知識・理解	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身に付けている。

(2) 分野別の評価の観点の趣旨

観点 \ 分野	技 術 分 野	家 庭 分 野
生活や技術への関心・意欲・態度	ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する技術について関心をもち、生活をよりよくするために知識と技術を進んで活用しようとする。	衣食住や家族の生活について関心をもち、家庭生活をよりよくするために知識と技術を進んで活用しようとする。
生活を工夫し創造する能力	生活と技術とのかかわりについて見直し、課題を見付けるとともに、その解決のために技術を適切に活用して工夫し創造する。	衣食住や家族の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造する。
生活の技能	ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に必要な基礎的な技術を身に付け、その技術を安全で適切に活用できる。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な技術を身に付けている。
生活や技術についての知識・理解	生活や産業の中での技術の役割について理解し、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に必要な基礎的な知識を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な知識を身に付けている。

保健体育

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、個人生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。
運動や健康・安全に ついての思考・判断	自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。
運動の技能	運動の楽しさや喜びを味わうために必要な技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
運動や健康・安全 についての知識・理解	運動の特性と運動の合理的な実践に関する基礎的な事項や生活における運動の意義を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

(2) 分野別の評価の観点的趣旨

観 点 / 分 野	体 育 分 野	保 健 分 野
運動や健康・ 安全への関心 ・意欲・態度	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。
運動や健康・ 安全に ついて の 思 考 ・ 判 断	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。
運動の技能	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	
運動や健康・ 安全に ついて の 知 識 ・ 理 解	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

外国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。
表現の能力	初歩的な外国語を用いて，自分の考えや気持ちなど伝えたいことを話したり，書いたりして表現する。
理解の能力	初歩的な外国語を聞いたり，読んだりして，話し手や書き手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解する。
言語や文化についての知識・理解	初歩的な外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

観点 \ 学年	第1学年，第2学年及び第3学年
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。
表現の能力	初歩的な外国語を用いて，自分の考えや気持ちなど伝えたいことを話したり，書いたりして表現する。
理解の能力	初歩的な外国語を聞いたり，読んだりして，話し手や書き手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解する。
言語や文化についての知識・理解	初歩的な外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

特別活動の評価の内容及びその趣旨

特別活動
評価の内容及びその趣旨

内 容	趣 旨
学 級 活 動	話合いや係の活動などを進んで行き、学級生活の向上やよりよい生活を目指し、諸問題の解決に努めるとともに、現在及び将来の生き方を幅広く考え、積極的に自己を生かしている。
生 徒 会 活 動	委員会の活動などを進んで行き、全校的な視野に立って、学校生活の向上や他のためを考え、自己の役割を果たしている。
学 校 行 事	全校や学年の一員としての自覚をもち、集団や社会における自己の役割を考え、望ましい行動をしている。

行動の記録の評価項目及びその趣旨

行動の記録
評価項目及びその趣旨

項 目	趣 旨
基本的な生活習慣	自他の安全に努め，礼儀正しく節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
健康・体力の向上	活力ある生活を送るための心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	自分で考え，的確に判断し，自制心をもって自律的に行動するとともに，より高い目標の実現に向けて計画を立て根気強く努力する。
責任感	自分の役割を自覚して誠実にやり抜き，その結果に責任を負う。
創意工夫	探究的な態度をもち，進んで新しい考えや方法を見付け，自らの個性を生かした生活を工夫する。
思いやり・協力	だれに対しても思いやりと感謝の心をもち，自他を尊重し広い心で共に協力し，よりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	進んで自然を愛護し，自他の生命を尊重する。
勤労・奉仕	勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち，進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	正と不正を見極め，誘惑に負けることなく公正な態度がとれ，差別や偏見をもつことなく公平に行動する。
公共心・公德心	規則を尊重し，公德を大切にするとともに，我が国の文化や伝統を大切にし，国際的視野に立って公共のために役に立つことを進んで行う。

中 学 校 生 徒 指 導 要 録 (参 考 様 式)

様式1 (学籍に関する記録)

	学年	1	2	3
区分				
学 級				
整 理 番 号				

学 籍 の 記 録							
生	ふりがな 氏 名		性 別		入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学 第 学年編入学	
		昭和・平成 年 月 日生					
徒	現住所				転入学	平成 年 月 日 第 学年転入学	
保 護 者	ふりがな 氏 名				転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日	
	現住所					卒 業	平成 年 月 日
入学前の経歴					進学先・ 就職先等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・ 所在地等)				年度 学 区 分 年	平成 年度	平成 年度	平成 年度
					1	2	3
				校長氏名印			
				学級担任者 氏 名 印			

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分 \ 学年	1	2	3
		学 級			
		整理番号			

各 教 科 の 学 習 の 記 録																	
必 修 教 科							選 択 教 科										
観 点 別 学 習 状 況							観 点 別 学 習 状 況										
教 科	観 点	学 年	1	2	3	教 科	観 点	学 年	1	2	3	教 科	観 点	学 年	1	2	3
社 会	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断 資料活用の技能・表現 社会的事象についての知識・理解																
数 学	数学への関心・意欲・態度 数学的な見方や考え方 数学的な表現・処理 数量，図形などについての知識・理解																
理 科	自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 自然事象についての知識・理解																
音 楽	音楽への関心・意欲・態度 音楽的な感受や表現の工夫 表現の技能 鑑賞の能力																
美 術	美術への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力																
保 健 体 育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 運動や健康・安全についての知識・理解																
技 術 ・ 家 庭	生活や技術への関心・意欲・態度 生活を工夫し創造する能力 生活の技能 生活や技術についての知識・理解																
外 国 語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現の能力 理解の能力 言語や文化についての知識・理解																
評 定																	
学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保 健 体 育	技 術 ・ 家 庭	外 国 語	学年							
1										1							
2										2							
3										3							
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 記 録																	
学年	学 習 活 動							観 点 評 価									
1																	
2																	
3																	

生徒氏名	
------	--

特別活動の記録				行動の記録										
内容 学年	学級 活動	生徒会 活動	学校 行事	項目 学年	基本的な 生活習慣	健康・体 力の向上	自主・ 自律	責任感	創意工夫	思いやり ・協力	生命尊重 ・自然愛 護	勤労・ 奉仕	公正・ 公平	公共心・ 公德心
2				2										
3				3										

総合所見及び指導上参考となる諸事項														
第 1 学 年					第 2 学 年					第 3 学 年				

出欠の記録						
区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

(注)「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄には、以下のような事項などを記録する。

各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見

特別活動に関する事実及び所見

行動に関する所見

進路指導に関する事項

生徒の特徴・特技、学校内外における奉仕活動、表彰を受けた行為や活動、知能、学力等について標準化された検査の結果など指導上参考となる

諸事項

生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見